

# 2011 台灣農業機械暨資材展編

## 1. 展示会日程および開催場所

2011 年度の展示会開催日程は 10/22～10/24 の 3 日間で、主催者は雲林縣政府および台灣區農機工業同業公會である。展示場所は雲林縣虎尾鎮高鐵預定區で昨年度と同じ場所である。この農業機械展への参加目的は、北海道から 5 社が製造している畑・野菜用農業機械を展示し、台湾での販路開拓や利用促進を図ることである。この事業は、經濟産業省の「ものづくり事業者等海外販路開拓支援事業」の補助を受けて実施した。

表 1 展示会日程

日付	実施内容
10月20日(木)	移動日 千歳—台北空港(航空機), 台北空港—台中(車)
10月21日(金)	展示会場へ移動
	展示設営
	場所: 雲林縣虎尾鎮高鐵特定區(台大醫院虎尾分院旁: 虎尾鎮學府路)
10月22日(土) ~ 10月24日(月)	実演・展示会 (8:30~18:00)
	場所: 雲林縣虎尾鎮高鐵特定區
10月25日(火)	展示会場の後かたづけおよびダイコン調査
	ダイコン調査: 南投縣埔里鎮農會(大根の収穫および集荷設備)
	場所: 南投縣埔里鎮合成里西安路三段 255 調査後, 台北に移動
10月26日(水)	移動日 台北—千歳空港(航空機), 到着後解散



図 1 展示会場

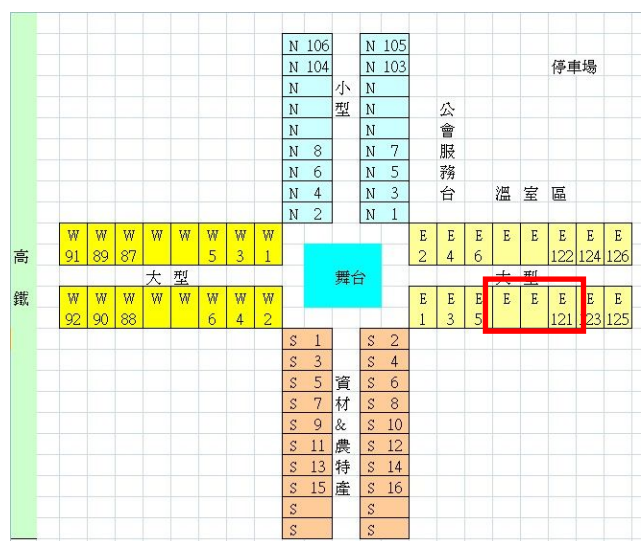


図 2 北農工展示場所 (赤枠)

## 2. 実演・展示会

### 2.1 展示機種

展示機械は5社、7機種で、内訳は台湾で栽培面積が多いタマネギ、ニンジン、ダイコン、エダマメ、ジャガイモなどの野菜用機械および農産物や資材を運搬するトラクタ用リヤバケットである。ジャガイモの選別機や種いも切断機の2機種はカタログ展示とした。

台湾では農家の生産への補助金は殆どなく、補助金は農政推進方向に合致した場合のみで、例えば輸出農産物生産や出荷などである。ニンジンハーベスタは自走式で高価であり、専業農家、産銷班、合作社、農會、農企業などの大規模営農に、その他の機械類は比較的安価なため、専業農家や小規模な営農集団への導入を想定している。

表2 展示機械

会社名	機種名	機体の大きさ			
		全長 mm	全幅 mm	全高 mm	重量 kg
訓子府機械工業	タマネギ根切り機	500	1,400	900	190
	タマネギディガー	1,400	1,750	1,000	190
エフ・イー	ダイコン洗浄機	1,970	980	1,740	250
	ジャガイモ皮むき機(小型)	910	500	1,120	70
アトム農機	油圧バケット ハイダンプ 19F-2SPH	1500	2265	1015	490
オサダ農機	ニンジンハーベスタ	4,830	2,475	2,750	2,840
本田農機工業	エダマメピッカー HYM-600EGK-C	1,860	1,070	2,350	262
福地工業	選別機、種ばれいしょ切断機	カタログのみ			

### 2.2 展示会の概要

虎尾鎮の街から展示会場までの道路の両側には多数の幟や看板が立てられていた。台湾最大の農業機械展示会であるが、展示会場は空き地の多い工業団地造成地の中を走る道路上である。将来は新幹線の駅ができ、その時には発展するとのことで、既に近くに大きな総合病院がある。展示場所は3車線のアスファルト道路の上にテントを張り、展示する小間を設定している。道路幅は12m程度で、テント幅9m、その中の6mは展示、3mは通路の区分であった。事前に設置を依頼したAC100Vと240Vの電源配線や水道は利用可能であった。

早朝の気温は高くないが、日中になると気温が上昇し、30度以上で蒸し暑い。展示会開催期間中は雨もなく、晴天に恵まれたのは幸であった。

展示会初日には10時すぎより開会式があり、雲林縣政府や台灣區農機工業同業公會および多数の来賓や関係者の挨拶があり、当会も演壇に上がり、展示会参加とお礼の挨拶を行った。開会式終了後、トラクタや運搬車、モデルの人形を先頭に関係者による会場内のパレードがあった。

<p>展示会場案内ポスター</p>	<p>雲林縣政府ポスター</p>	<p>開会式アトラクション</p>
<p>大会委員長挨拶</p>	<p>開会式会場(前列来賓は未到着)</p>	<p>開会式</p>

図3 開会式

### 2.3 一般社団法人北海道農業機械工業会の展示

開催前日に北農工の看板設置、農業機械の設置と予備運転、トラクタの準備、電源や水道の接続、液晶モニターを設置とDVDの試運転などの準備作業を終えた。

<p>展示ブース</p>	<p>展示ブース</p>	<p>展示ブース看板</p>
<p>北農工の展示機械看板</p>	<p>前日から見学の農家(裸足で)</p>	<p>IT 自転車</p>

図4 展示準備

展示時間は 8 時 30 分～18 時であるが、展示会場には 8 時過ぎから来場者があり、涼しい時間帯に見学に来る人が多いと思われ、午後になるとやや少なくなった。大会初日は最も賑わっており、2 日目は夕方から花火大会があるとのことで、これを目当てに 16 時頃から人が多くなった。最終日の来場者は少なくなったが、展示機械を購入したいという人が増え、また事務局からは「どれくらい販売したか」の問い合わせがあった。展示と同時に販売も可能な展示会で、販売金額の一部は展示会経費になるとのことであった。

北農工のブースでは多数の来訪者が足を止め、機械や DVD の映像を見ていた。1 日に 5～6 回、各社の集中説明会を設けたが、映し出された DVD の画像を熱心に見ていた。にんじん収穫機やだいこん洗浄機など各社の機械を見て、「こんな作業まで機械化できるのか」といった印象を持っていたようであった。さらに関心を持った方には個別に機械や機能の説明を行った。展示会終了日には雲林縣政府より感謝状を頂いた。

北農工の展示では、以前から知合いであった呉鳳技術學院の林志達先生から、日本語を勉強している学生のため、通訳のお手伝いの申し出を受けた。土曜日や日曜日を含む開催日程であったにもかかわらず、先生をはじめ多数の学生に無償で手伝っていただき、深く感謝している。

雲林縣府新聞では、「參展農機廠商包含來自日本」、「韓國等參展農機廠商達」の記事を掲載し、日本や韓国からの展示があったことを報道していた。



		
<p>北農エブースの賑わい</p>	<p>通訳を手伝った頂いた日本語学校の学生</p>	<p>雲林縣政府からの感謝状</p>

図5 北農エブース

北農エブースへの来訪者数は多数で数える事が出来なかった。呉理事長を訪問し、来場者数を聞いたところ、昨日は10万人、本日4万人との「白髪三千丈」的な答えであったが、全日程の来訪者数は5～8万人程度と推定された。来訪者は親子連れも多く、お祭りの賑わいであった。また、呉理事長は帯広の国際農業機械展に台湾からも展示したいとの希望を持っていた。

北農エブースで、価格の問い合わせや購入希望などの来訪者は30名程度で、価格や仕様の問い合わせ等の商談があった。

### 3.4 その他のメーカー展示

大型機械の展示はニューホランド、ヤンマー、ジョンディア、マッセイファーガソン、井関農機などのトラクタやコンバインであった。また、自走式落花生収穫機や米の乾燥機などの展示も見られた。しかし、大半は小農機具の展示であった。機種はティラー、小型運搬車、高床式運搬車、刈り払い機、水田除草機、乾燥機などである。特に目についたのはティラー用の各種刀の展示で、耕うんから畦立て、果ては草刈りまでを行う。さらに小型の背負式防除機、タイヤ、部品や工具などの展示も多く、蚊取り器や鼠取り器の展示もあった。暑いところなので豚舎や鶏舎などの冷却に使用するミスト機やファンの展示も多かった。

農機具のブースの他に、農薬や有機農業用資材などを展示している各種資材メーカー、試験研究機関からは、農業試験所による米食推進コーナーや開発を行った農業機械の展示があった。

展示ブースの一部で、台湾国内の各地の農会による農産物や加工品の直売があり、会場外の道路では種々の食事や飲料販売のテントや軽トラックが並び、来客で盛況であった。

<p>コンバイン(イセキ)</p>	<p>トラクタ(MF)</p>	<p>農家モデル人形と家鴨</p>
<p>農業改良場開発スプレーヤ</p>	<p>人力播種機</p>	<p>ティラー</p>
<p>ラッカセイハーベスタ</p>	<p>ハイクリアランス作業車</p>	<p>ファン</p>
<p>道路分離帯で実演</p>	<p>穀類乾燥機</p>	<p>パフォーマンスも</p>

図6 展示機械類

### 3. まとめ

台湾は狭い耕地で農産物を生産しており、自給率は30%程度である。国内で自給率100%にすることは難しく、食料は輸入に頼ることとなる。産業を発展させ、この利益で食料を輸入する構図は日本と同じである。しかし、日本と大きく異なる点は、国土が狭く、人口は2,300万人と少ないため、無制限な工業発展をさせることができないこと、また市民の食糧費低減と工業製品の輸出促進を図るため、関税ゼロを推進している点である。

2001年WTOに加盟以降、特に米、砂糖の生産は大きな打撃を受け生産量は減少したものの、品質向上とコスト低減を図りながら生産は継続している。一方、ジャガイモなど一部の野菜や豚や鶏肉などの肉類の輸入は増加したが、安全性、品質や味などの評価から国内産への要望が強い。このため、農業政策でも国内の生産量の増加や安定生産、安全性向上を推進している。

農家の経営規模は1ha程度、農家の農業所得の大半は労賃であり、安直な農業機械の導入は所得減少、遊休時間の増加をもたらすことが危惧される。しかし、高齢化の進行、若い担い手の減少、増産、低価格生産などから、産銷班、合作社、農會、農企業などで大規模化や機械化が図られ、集団栽培と出荷、農産物の品質や安全性向上が進んでいる。一方、農作業委託で農業機械の利用は増加している。

台湾における農業機械化は、圃場作業の作業能率や作業効率向上のみの観点では不可能であり、①農産物の品質、安全性、食味などを加味した栽培方法、②需要に合わせた出荷体制、③農地利用と生産方式、④労働負荷の軽減や労働時間の減少にともなう高収益作物の栽培、⑤農村社会の活性化などの視点も組み込んだ農業機械化の提案が不可欠であろう。

台湾の農家は豊かでないとの印象を受けたが、前向きに努力する姿勢と情熱、豊かな田園と楽しい農村生活を感じた農業機械展であった。